

【国語】 <小学校 第5学年>

1 結果のポイント

- 「話すこと・聞くこと」について、話し手が伝えようとしている内容の中心を正しく聞く力をみる問題等、ほとんどの問題の正答率が80%を上回っている。
- 「書くこと」について、読み手に内容がよく伝わるように必要な事柄を選ぶ力をみる問題の正答率が90%を上回っている。
- 課題についての自分の考えや、資料を読んで考えたことについて、立場や理由をはっきりさせて決められた字数で書く力をみる問題では、正答率が70%を下回っている。
- 「読むこと」について、主人公の気持ちを想像しながら読む力をみる問題の正答率が80%を上回っている。
- 主人公の気持ちの変化に注意しながら読む力や、優れた表現の効果を考えながら読む力をみる問題では、正答率が70%を下回っている。
- 「言語事項」について、必要な語句について辞書を利用して調べる力や、漢字を正しく読む力をみる問題では、多くの問題の正答率が80%を上回っている。
- 漢字を正しく書く力をみる問題では、正答率が60%程度のものである。

2 結果の分析

(1) 話し手が伝えようとしている内容の中心を、正しく聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題> 四の一

佐藤さんは、チラシの広告について考えたことを発表しています。佐藤さんの話の中心となっている話題はどんなことですか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

- ア チラシに書かれていたサッカーボールのデザインのちがいについて。
- イ チラシの広告が大きさで書かれていたことについて。
- ウ いろいろな店のチラシでどのように値段をくらべるとよいかについて。
- エ チラシの広告ですばらしい景品がもたらされたことについて。

<結果> 正答率 90.6% (正答…イ)

<分析>

この設問は、話し手が伝えようとしている内容の中心を、正しく聞く力をみる問題である。正答の要因として、話の後半にあるスーパーでびっくりしたことや楽しい思いをしたことについて述べた表現と、話の最後にある最も伝えたい「ぼくは、こういうチラシはよくないと思います。」という表現に着目することによって、話の中心を聞き取り、話し手が伝えようとしている内容の中心を、正しく聞くことができたと考えられる。本年度、「聞くこと」の設問のほとんどの正答率が80%を上回っていることから、昨年度と同様に聞く力が身に付いているといえる。

(2) 資料を読んで考えたことについて、理由をはっきりさせ、決められた字数で書く力をみる問題の例（「書く能力」）

<問題> 四

次の表は、全国の小学生に、「大人になったらなりたいもの」についてアンケートをとった結果を男女別にまとめたものです。この表を見て、あなたはどのように考えましたか。自分の考えと、そのように考えた理由（表から考えた理由や自分の経験から考えた理由など）を五行以上七行以内で分かりやすく書きましょう。

<結果> 正答率 51.6% (正答…略)

<分析>

この設問は、資料を読んで考えたことについて、理由をはっきりさせて決められた字数で書く力をみるもので、今年度新たに設けた問題である。無解答はわずかで、ほとんどの児童が意見や

理由を記述しようとしていた。誤答としては、考えだけが記述され理由がなかったり、五行以上七行以内で記述できなかつたりするものが多くみられた。これらの要因として、自分の考えの根拠が明らかにできなかつたり、決められた条件を踏まえられなかつたりすることが考えられる。したがって、今後、自分の考えを分かりやすく伝えるために、決められた条件の中で、必要な事柄を集めたり、目的や意図を一層意識したりして書く力を育てる指導を充実させる必要がある。

(3) 登場人物の気持ちの変化に注意しながら読む力をみる問題の例（「読む能力」）

<問題> ㉓ の二(2)

次の問題文に当てはまる部分を、文章の上にある1～5から選びましょう。

(2) カガミジシをとりながしたことがはっきりして言葉も出ない源助じいの気持ち分かるのは、どの部分ですか。文章の上にある1～5の中から一つ選び、その番号を□の中に入力してください。

<結果> 正答率 (2) 70.2% (正答…5)

<分析>

この設問は、カガミジシを待ちかまえている源助じいの気持ちの変化に注意しながら読む力をみる問題である。誤答としては、「3」「4」の割合が大きかった。その要因として、問題文の「言葉も出ない源助じいの気持ち」と、正答「5」の「ことばもでなかった。」という叙述とを結び付けて考えることができなかつたことが考えられる。したがって、今後も、叙述を根拠にして、物語の展開と結び付けながら登場人物の気持ちの変化に注意して読む力を高める指導を充実させる必要がある。

(4) 4年生までに習った漢字を正しく書く力をみる問題の例（「言語に関する知識・理解・技能」）

<問題> ㉔ の(3)(4)

次の文の——部を漢字に直して、□の中に入力してください。

(3) 彼は 悲しくて ないた。 (4) 幸福を ねがう。

<結果> 正答率 (3) 86.1% (正答…泣) (4) 82.3% (正答…願)

<分析>

この設問は、4年生までに学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。(3)(4)は、他の設問に比べて、正答率が高かった。その要因としては、児童が日常生活や学校生活の中でよく書いている漢字であるということが考えられる。漢字を正しく読む力をみる問題に比べると、依然として課題はあるが、昨年度の類似問題の正答率の平均と比較すると、本年度は14%程度の伸びがあり、漢字を正しく書く力が徐々に身に付いてきているといえる。その要因として、学習した漢字を繰り返し練習できるように、国語や各教科等の授業において、漢字を書く場や機会を意図的に設定したことが考えられる。したがって、今後も繰り返し練習したり、漢字使用に対する児童の関心・意欲を大切にしながら、日常生活の中で意図的に漢字を書く機会を多様に設定したりするなどの指導を継続して充実させることが大切である。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、話の組立てや話し手の意図を考えながら聞く力を高めることや、話し合いの進め方について正しく理解できるようにすることが重要である。そのために、年間指導計画に「聞くこと」に関する指導事項「イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと」、「ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと」が適切に位置付けられているかを見直すことが求められる。さらに、話す聞く活動と他教科・領域との学習との関連を図り、実際の場面を意識した指導が行えるような計画となるように改善するとともに、「五つの言語意識」を明確にし、活動の有用性が実感できる単元指導計画に改善する必要がある。
- ・「書くこと」については、学習の課題に対する自分の考えや、図や資料等を読んで考えたことを

もとに、立場や理由をはっきりさせて決められた条件で書く力を育てることが重要である。そのために、年間指導計画に「書くこと」の指導事項に照らして各学校の児童の実態を考慮し、例えば「ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと」を重点的に位置付けたり、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」の領域における手立てとして書く活動を効果的に位置付けたりすることが求められる。さらに、単元指導計画について、書いた作品や文章を必ず読んでもらったり、評価を受けたりする場を設定し、書いたことの有用性が実感できるように改善する必要がある。

- ・「読むこと」については、登場人物の気持ちの変化に注意しながら読む力や、優れた表現の効果を味わいながら読む力を育てることが重要である。そのために、年間指導計画に「読むこと」の指導事項「ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」を位置付けることが求められる。そのうえで、登場人物の心情と場面の情景とを結び付けて読み取る指導に重点を置く単元指導計画の見直しが求められる。さらに、単元の読みのめあてを設定して、登場人物の心情の変化に注意して読み進めたり、同じ作者の文章を読んでブックトークを行うなどして、より目的的な読書活動を単元の終末に位置付けたりした単元指導計画となるように改善する必要がある。
- ・「言語事項」については、3領域との関連も視野に入れて、効果的に児童に力が身に付くよう、適切な時数を位置付けた年間指導計画となるよう工夫改善を図る必要がある。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、相手意識、目的意識等を明らかにし、児童自身が目指す姿を具体的に理解できるような指導の充実が求められる。さらに、話したり聞いたりする時間を十分確保するとともに、意図に応じてペアや小集団等の学習形態を設定するなどして、単元の終末に向かい、目標をもって言語活動に取り組めるような手立てを工夫し、話す聞く活動の有用感が高まるよう指導の改善を図る必要がある。
- ・「書くこと」については、伝える相手を意識した活動を設定し、具体的事例や体験を根拠にして書く活動や、多様な文種の文章を読んで考えたことについて書く機会を設定するような指導の充実が求められる。さらに、効果的な構成で書かれた文章からそのよさを見付けたり、複数の構成の中からより適切なものを選んだりするなど、構成する力に重点を置くとともに、根拠や理由を明確にして自分の考えや意見を書く力を身に付ける指導を充実させる必要がある。
- ・「読むこと」については、学習の課題や読む目的がはっきり意識できるようにしたり、重要語句への着目の仕方や着目した語句の解釈の仕方といった具体的な読み取り方を身に付けたりする指導の充実が求められる。また、自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読んだり、段落相互の関係をとらえて要旨を書きまとめたりする学習を積極的に取り入れる必要がある。
- ・「言語事項」については、繰り返し練習することを大切にするとともに、他教科、学校生活、家庭学習等のあらゆる書く活動において、学習した漢字を使用することの有用感が実感できるよう、児童の取組のよさを価値付けたり方向付けたりする指導の充実が必要である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・児童が直接聞いたり見たりする教師自身の話し言葉や、板書、プリント資料の文字等についても範を示し、豊かな言語環境についての整備を一層推進する。
- ・学校図書館における図書の分類や検索の仕方の学習を位置付け、利用指導や環境整備を行い、児童が日常的に学校図書館を利用できるよう配慮するとともに、読書の質が向上するよう助言する。
- ・表現したり理解したりするために必要な語句について、日常的に国語辞典を利用して調べる習慣を身に付けるよう、身近に辞書を置くなどの学習環境を整え、活用の機会を意図的に設定する。
- ・互いの立場や考え方を大切にし尊重し合う指導を徹底し、自分の思いや考えを文字や音声等を通して、安心して伝え合うことができる学習集団を育成する。
- ・家庭学習の場が、学習した漢字の繰り返し練習や、言語活動の有用感を実感する場として位置付くよう、家庭との連携の在り方を明確にするとともに、適切な見届けや励ましを行う。